

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	29	大学等名	産業能率大学
テーマ	テーマ I・II 複合型		

### 【総括評価】

S：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

### 【コメント】

<優れている点>

- ・本取組は「教員個人の教育力と組織的な教育力の統合的強化」という意味では総合的な取組である。AP 進捗管理表に基づいて事業の進捗状況を把握できる体制を整え、また、授業スタッツデータの分析結果を記したフィードバックシートを教員に提示し、コンサルテーションを実施するなど、個々の科目担当教員における授業改善の PDCA サイクルも組織的に推進していることは評価できる。
- ・成績評価において授業外学修の割合を一定以上とすることによって、学生の授業外学修時間が平成 26 年度から 28 年度にかけて倍増し、既に平成 31 年度目標値に達していることは大いに評価できる。高次の PBL 実施科目数も既に平成 31 年度目標値を上回り、PBL 実施上、教員が留意すべき点等をまとめたガイドブックの第一版も完成している。学習支援センターによる事前・事後学習の支援件数も平成 27 年度に 1,000 件を超え、活用されている状況がうかがえる。
- ・組織間の連携協力を図る全学的な体制を整備するとともに、新たに教職員から構成される 8 つのユニットを組織し、各ユニットの年度計画・報告をデータベースで管理しながら AP 事務局会議で状況確認して改善を行っていることは評価できる。外部委員についても適切な専門家を招聘し、事業の検証を行っていることは評価できる。
- ・当初計画より高大接続の強化が挙げられていることから、大学だけでなく、高校との交流も深め、高校生向け「主体的学習者育成プログラム」の開発等も行っていることは評価できる。また、高校・大学における講演、教員研修、出張講義など、積極的に活動している実績も示されており、評価できる。